

素人小説

第1回「某社長の情報生活」



株式会社 BSO

1 第1回「某社長の情報生活」

- ・ 出張先での朝
- ・ 3つの電子メール
- ・ 電子化の月例業績・戦略検討会
- ・ 日々の営業展開をパソコンで把握
- ・ プロジェクト活動へのアドバイス
- ・ インターネット社長会出席
- ・ 彼の想いは続く

出張先での朝

1996年12月1日80名弱の社員での建築用金属部品の製造販売業を営む55才になる彼にとっても、朝4時半の起床はつらかった。今回の3泊4日の四国への出張も実は昨日の20時台のJRで帰阪する予定だった。ところが、今度商品を扱って貰うようになった田中商事の、初対面に近い社長はじめ上層部との会食で意気投合してしまい、もう若くもないと言うのに、3次会まで行き急遽ホテルをとって泊まることになってしまった結果なのである。

宿泊した高松グランドホテルは、JR高松駅の前にあり5時48分マリナーに乗るのに10分とかからないとはいえ、ここ数年このような生活をするようなこともなくなっていただけにやはり辛かった。いつもはゆっくり朝、布団の中で枕に無造作に置かれていただけにやはり辛かった。いつもはゆっくり朝、布団の中で枕に無造作に置かれていただけにやはり辛かった。いつもはゆっくり朝、布団のむくことからはまる一日なのだが、今日は目覚ましの音を腹立たしく消しながらベツトから出た。シャワーを浴びて目を覚まそうとする努力は、他人が見たらさぞかし痛々しく感じたであろう。

バタバタしてホテルのチェックアウトを、またJRの切符を、出張精算で手を取られることがなくなったことに感謝しながら、法人クレジットカードで処理して、マリナーのシートに腰を下ろしてやっと一服した気分になる。

3つの電子メール

今日一日を開始する気分になったところで、ザウルスで今日のスケジュールとメモの書かれているアクションプランナーに目を通し、今日一日の過ごし方を頭に描きながら、ザウルスにデジタル携帯電話を繋ぎ、いつもは夜に目を通すはずの電子メールを覗き込んでまず処理することにした。

個人的な相談事のために開設している親展メールには、今日は何も入っていないのを確かめて、社外からの連絡をクライアントボックスで見る。A社の社長が日程を変更して欲しい旨のメールが入っている。大分忙しそうに様子を探して、彼は快く変更できる日程案を3つメールに入れた。相連報アドレスには、社員の相連報が7件入っていた。総務部長から、狭くなった岡山支店の移転先候補についての相談、来期からの中期要員計画試案について意見を求めて来ている。

バブルが弾けた頃、刻々と変化する状況の件で、彼自身も動きながら得意先や社員との相連報や調整・打ち合わせで毎日深夜まで時間をとられていたのが、今も頻繁にコミュニケーションする状況はあまり変わっていない。電子メールを使うようになり、電話や会議等で追い掛けられ、息が詰まるような生活をしていたことが嘘のようである。

電子化の月例業績・戦略検討会

9:30から始まる、月例の業績戦略検討会は、従来各種のデータを収集し資料を作るのに手間がかかり、月の半ば頃しか行なえなかった。最近はおフコンやパソコンサーバーのデータに取り込まれ、取り込まれなかったデータは自動的に加工され会議資料となる。そのため、データの収集加工に手間や時間がかからなくなり、昨日のデータまでが含まれた資料で会議が出来るようになった。お蔭で「今」の状況をとらえた上で検討が出来るので、従来は志望報告的な実績の確認に終始しがちな会議だったが、全社的に手を打つような対策を余裕をもって行なえるようになった。また、ペーパーレスに移行した最初は、参加メンバー全員がどうしても覗き込んでしまい会議になりにくかった。プロジェクターに変わってからは、「皆で会議」といったペーパー時代の感覚で行える会議に戻り、数年前の状況が大昔のような感じに錯覚することさえある今日この頃である。

日々の営業展開をパソコンで把握

昼前に月例の業績戦略検討会は終わった。先の会議で営業が苦戦していることが報告されその対策の協議に開始したため（今朝までの出張もその一環であった）、今日はそのお蔭で新規開拓関係の検討まで手が回らなかった。

ところで、彼の会社は3年前から経営の電子化に取り組み、報告書の類は殆ど廃止されている。また、営業活動も訪問予定・実績はもちろん訪問報告から入手

した各種の情報までがそれぞれの担当者が自分でザウルスに入力し、公衆回線を使ったり、営業関係データ等を収集保管しているパソコンに、その日の内にデータ送信する仕組みになっている。このような電子化の話がでた頃、やっかいな時代になったなあというのが実感だった。最近はスイッチを入れると自動的に出てくるウインドウズ95のメインメニュー画面でアプリケーションソフトのアイコンをクリックするだけで目的のソフトが動かせるので、違和感なくと言うより、自分のペースで仕事は出来る日が多くなったことに感謝する気持ちを持つようになっていた。入れ替わり立ち替わりの人の出入りで一日を慌ただしく過ごしたり、次から次に持ち込まれる書類に釘付けにされることもなくなった。

ところで、今期の最優先新規開拓先として取り組んでいる山谷産業の攻撃が気になり、彼は社長机の上のデスクトップパソコンで、この半年の山谷産業訪問状況や攻撃推移がどのように展開されているかを見ることにした。また、山谷産業の担当である中西君のここ3か月の考働実績の時系列データにも目を通して、既得意先に力をとられ山谷産業への訪問は最小限度の形だけになっていく。その状況にやはりかと憎々しく思いながら、上司の白井課長の動きを同じく時系列データでみると、部下の目標達成の出来難いのをカバーすべく走りまわっている。第一営業部長である大竹の話聞き相談ののってやる必要があるなど思いつつ、大竹部長のスケジュールを見る。来週の火曜日の4日の夜が空いていそうなのを見て「久しぶりにご飯でも食べにいくか」との電子メールのキーを叩いた。

プロジェクト活動へのアドバイス

インターネットがこれから彼の事業にどのような影響を及ぼすか、またどのようなビジネスを誕生させるか、この1年ほど興味を持ち米国にも再三行ってきた。まだ色々な課題があり、今すぐに手を掛けなくても自分の事業に脅威になる事はないと読んでいるものの、彼のビジネスに対する動物的感みたいなものがある種のビジネスチャンスを嗅ぎつけているようである。そのため、社内にインターネットプロジェクト開発プロジェクトチームを作り取り組ませている。それ以外でも、コストダウンなど3つのプロジェクトチームがあるが、担当役員に任せっきりで進捗状況をチェックする程度での状態である。彼の関心はこのインターネットのプロジェクトに偏っている。

ロータスノーツというグループウェアを動かし、インターネットのプロジェクトの活動状況を覗き込む。メンバーはインターネットビジネスの成功事例を探して、わが社に合うか否か検討をしている。どうも面白くない。今までにないインターネットの特性を活かすような新しいビジネスを発想して欲しいのにと思いつつも、せっかく意欲的に取り組んでいるのに水をかけるようなこともできず、やんわりと「資料が少ない中での作業で大変だろう。時には気分転換のつもりで、こんなビジネスがインターネットで出来たら面白い。このようなことをしてみな

いか。」とアドバイスというか頼みをメンバーの意見収集欄に掘り込むことにした。

インターネット社長会出席

さて、秘書に社長会に出席することを伝えて、インターネットを開いた。

研究会とか講演会などに参加せず見聞を広げない日が何日か続くと、なぜか彼は激しく変化する中で置いてきぼりにされたような恐怖感に駆られる。彼が比較的よく参加していたユニバーサル総研でインターネット社長会が開設された。入会金500万円に、年会費100万円にちよつと迷いが横切ったが、開設と同時に入会した。この回では、毎週金曜日に定例の研究会・講演会がある。それ以外に不定期で、単発のものが週に1回程度の頻度で行われている。

前回の「APECと日本企業」講演の中であつて疑問を質問に出していた。つその返事を見て、今日の講演にも参加することを決めた。PM4時半からホームページを開き出し、内容が豊富だったのか一段落して気づいたときはPM6時過ぎていた。今日は朝が早かったこと、また社長会で真剣に考えていたことでの程よい疲れもあり、今日はこれまでとパソコンのスイッチを切って部屋を出た。

彼の想いは続く

彼の会社では、会議は月例業績・戦略検討会は、プロジェクト活動は原則としてグループウェアを使って行うことにしている。これは、プロジェクトチームのメンバーのほとんどが実務担当で、どちらかというと時間比例型の労働に従事している。会議に時間をかけるよりも、自分の仕事を優先させることになっている。そのため、仕事の合間でも会議に参加できるようにした。思惑通りの会合やミーティングの改善に一步前進できたことにほっとして満足感を味わっている。またパソコンの電子会議システムを出来る限り早い時期に導入し、年間労働1800時間をさらに短縮して、より付加価値を向上させるべく、電子化による密度の高い仕事の仕方ができるよう、経営を変身させていくことを再度考えながら会社を出た。